

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393600063		
法人名	有限会社フロンティア		
事業所名	グループホームたいら金時		
所在地	〒709-4334 岡山県勝田郡勝央町平1119		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3393600063-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3393600063-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年2月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご自分で出来ることはして頂きながら、個々穏やかに笑いながら、第2の我が家として家族のように寄り添い、一緒に生活させて頂く内に、ここに居て楽しい、ここが家だと思って頂けるようになり、利用者様の温かい居場所、第2の我が家になるように日々職員一同頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同法人で4箇所目となる当事業所は、利用者をどこからでも見守ることが出来るL字型の居間、肩まで湯に浸かり寛げる個浴、勝央町の町並みが一望できる南向きの大きな窓、明るい光が差し込む天窗等、随所にこだわりを感じる造りとなっている。  
事業所は、自分の家を離れざるを得なくなった利用者が、自由気ままに自分らしい生活を送れる「第2の我が家」を目指し、日々奮闘している。管理者は「自分がされたら嫌な行為は絶対にしないで欲しい」と日々伝えている。職員達の優しい思いが伝わり、入所当初帰宅願望が強かった利用者も今では、「第2の我が家」で穏かな日々を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 “第2の我が家として自分らしい生活を送る事が出来るように支援します” 玄関に掲げると共に職員会議又普段の業務の中で職員には周知しています。	管理者は理念にある「自分らしい生活」が実現できる環境づくりを職員に指導している。利用者の個々を大切に、在宅時の生活が継続できる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の祭り時、地域から子供達が神輿をかつぎ訪問され、地域住民との交流を図っています。地域ボランティアの来訪があり、その都度交流もあり、地域のとんど祭り、初詣に出掛け、又文化祭に利用者様の手作り品を出品、見学等の外出有り。	近所の方が犬の散歩の途中に、事業所に顔を覗かせてくれ、野菜を届けてくれる。利用者はそれをとても楽しみにしている。地区長の協力のお陰で子供神輿が事業所に立ち寄る事となり、子供達との交流を楽しめた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛育委員の視察を受け入れ、利用者様の日中の様子を見て頂き、又グループホームの役割等について、質問を受けたりして、認知症理解をして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、家族様(5~6名)・区長・民生委員・市町村に召集をさせて頂き、利用者様の様子や行事報告、予定を報告し、意見、要望を聞かせて頂きサービス向上に反映しています。	大家さんの計らいで区長、民生委員を紹介してもらい、運営推進会議のメンバーになってくれた。地区の情報を知らせてもらえるので事業所は大変助かる。区長が案内してくれるイベントを利用者は楽しみにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催で、半年に1回程度地域密着型生活介護管理者会議があり、情報交換をしています。グループホーム主催の運営推進会議に参加を要請し参加して頂き、情報交換・交流をしています。	管理者が市外在住の為、ゴミの出し方等解らない事は何でも市に相談して対応している。運営推進会議にも参加してもらい、事業所の取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束防止についての周知をし、身体拘束防止マニュアルを事務所に設置しています。今後定期的に、職員会議で研修をしていきます。	帰宅願望の強い利用者が居ても、見守りと寄り添いを徹底し施錠はしない。利用者から呼ばれた時は、作業を中断してでも対応するように指導し、「ちょっと待って」という言葉は使わないように指示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について周知し虐待防止マニュアルを事務所に設置しています。日頃から事業所内で虐待が起こらないよう細心の注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部知らない職員もいると思います。 今後早急に施設内研修をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には利用者様、家族様に十分な説明をさせて頂き理解、了解はして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に家族様より意見・要望を聞かせて頂き、日常の勤務に生かしています。	面会時や運営推進会議時に「何かご希望は？」「何か心配事は？」等、声を掛けるように努めている。家族の面会は頻回な為、話をする機会が多い。在宅時に好きだった事を聞き、運営に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、職員会議時、意見交換、提案を聞き業務に生かしています。	積極的に職員からの意見を聞き、アイデアを取り入れている。例えば、衛生面から排泄支援用のエプロンを別に設けて欲しいとの意見が出て、使い捨てのエプロンをトイレに設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状態を把握し、必要時に意見、話し合いの機会を持たれています。 各自が向上心を持ち働ける環境、職場であると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や性格により個人差があり、現状ケアの力量には差がありますが、今後誰もが同じ対応が出来るように日頃の業務の中、研修で指導して、レベルアップをしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回多職種連携研修会があり、同業者・医療・ケアマネ・薬剤師でそれぞれの専門的立場で困難事例について勉強、意見交換、交流を図り、持ち帰り、施設内に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接時から信頼関係は生まれず、まず良い印象を持って頂く所から入り、真剣に傾聴させて頂いています。業務より、利用者様優先で個別ケアをし、時には環境を変え、散歩、ドライブで話を聴き、常に笑顔で寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面会時、介護計画作成時には笑顔で控えめに、言葉の奥に隠された思いに気づき、真摯な気持ちで接し困っている事、不安・要望を聞かせて頂いています。家族様への支援も必要だと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の要望が違う事が多く、今必要な優先順位は何かと考えながら、サービスを考えられています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り第2の我が家として家族のように共に感じ、泣き、笑い、同じ物を食べ、暮らしを共にしたいと思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が出来る事、医療が出来る事、家族様しか出来ない事があります。普段から信頼関係を保ち連携して利用者様を支えて行きたいと常に思い行動しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの訪問、小学校相撲大会等に出向き、交流を図っています。面会の少ない家族様には面会の依頼をしています。	孫が通っている小学校の相撲大会に参加が出来た様、校長にお願いに行き実現した。家族の面会は多い。面会の少ない家族には、5分で構わないから顔を覗かせて欲しいと頼んでいる。外泊したり、行きつけの美容院に行ったりする利用者も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のように暮らせるように、その中で孤立しないように配慮させて頂きながら、又行事等の参加を促し支援しています。お互い出来る人が世話をやかれたり協力出来ていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約終了者はなく、今後は終了後も相談や支援は必要に応じて努めていきたいと思えます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を聴き思いに気づき、その人らしい生活が出来るように努めています。	業務優先より利用者の思いを大事にしたケアが一番に考えている。利用者同士の雑談等の際、共通の話題が持てず参加しそびれている利用者を見逃さずに声を掛けていた。逆に構って欲しくない利用者には、陰ながら見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族様関係、病歴等フェースシートに残し、サービス経過も個人様ファイルに閉じ職員への周知をしているので把握は出来ていると思えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々、出来る事はして頂きながら、現状の把握、異常時の早期発見対応は、毎日心掛けて対応させて頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設内担当者会議で意見を出し合い、今必要な方針を決め、介護計画書に繋がたいと思っていますが、抽象的なプランとなり、具体性に欠けていると反省しています。より分かりやすい具体的プラン作成に努めます。	職員会議から出た意見を参考に半年毎に作成している。利用者に要望を確認すると「健康」との回答が多いので、目標には掲げているが、もっと具体的な介護計画の作成を検討している。	現在介護計画が抽象的な内容になりがちである。今後、一人ひとりのニーズに合わせて具体的な目標を設定することで、本人の生きがいに通じる計画となるよう期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、日々の実践に生かしていると思えますが、まだまだ不十分な所があり今後努力していきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、今その人に何が必要か、何を求めているのか考えながら、柔軟な支援を今以上に努力していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに要請、来訪してもらい交流、良い時間を共有しています。地域の祭り、文化祭に出向き、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の要望で在宅からの主治医を継続されている人、又施設の連携医に変更された人さまざまです。受診、往診あり。受診は緊急時以外は家族様対応です。	訪問診療が可能な協力医に変更している方が多い。車だと5分で行ける距離に協力医療機関は在り、緊急時の対応も早い。以前からのかかりつけ医が往診に来てくれ、愛情深く声掛けをしてもらっている利用者も居る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W訪問看護あり、報告・相談で健康管理により努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今迄に入退院対応者は1名でした。入院中は定期的に面会に行き、その都度説明・情報を聞かせて頂きました。何回か通っている内に関係が作れたと思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の人の入所も多く、終末期に近い人も2名在席、本人様・家族様と話し合いをしながら医療と連携しチームケアで職員が出来る事を、緩和ケアの研修を受けながら全力で取り組んでいます。	家族と管理者は最期まで利用者に事業所で暮らして欲しい気持ちはあるが、医療行為が必要となれば、医療機関に転院した方が利用者の為になると主治医は考えている。	終末期を視野に入れた支援が必要な利用者もおられる為、緊急時の対応についての話し合いを設け、マニュアルを作成して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今の段階で全ての職員が自信を持ち出来ているとは言えない部分がありますが、今後定期的に研修、実践を積み全職員が対応出来るようにしていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害は、いつ発生するかわからない為、今後利用者様の安全な生活確保の為、全員が対応出来るよう地域との協力体制を強化していきます。	開設後まだ一度しか避難訓練を実施出来ていない。4月には消防署の指導の下、避難訓練を実施する予定。歩いて3分の近距離に住む職員は、緊急時に直ぐ駆けつけてくれることを約束に雇った。区長や民選委員は、何かあったらいつでも手助けに行くと断言してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ち、優しい介護を基本としていて、周知していますので、出来ていると思います。今後も尊厳を守り自尊心を傷つけないようにして精神的に安心・安定した生活の支援をします。	利用者は「世話をかけている」と遠慮してしまう事もある。それを打ち消す為に「してあげ」等の言葉を使わない様に指導している。事務所から偉ぶった言葉を使う職員の声が聞こえれば、言い方を注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、入浴時に衣類選び、他の事にも自己決定が出来るような言葉の工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念第2の我が家として自分らしい生活を送れるよう利用者の生活から、昔得意だった事が自信を持って出来るようにしてきています。 (料理・野菜作り)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来るように声かけをしています。認知の進行と共に入浴・更衣を拒否され、一度更衣しても又自分で更衣をされいつも同じ衣類を着ている人がいて、対応を模索しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の高い利用者様が多く、出来る人で一緒にテーブル拭き、配膳を個人的にして頂いている。 食後洗ったお膳を拭いて頂く支援をしています。	調理専属の職員を雇い、食事には力を入れている。調理者は利用者から好物を聞き、慣れ親しんだ味の提供を心がけている。大好物のあんこを使ったお菓子は、食材を丸めるなど利用者にも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量摂取表に記録し、職員全員が一日の水分量を把握し、水分摂取量の少ない利用者には何回かに分け色々な飲み物を用意しています。(1日平均約1500cc)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりに応じた口腔ケアは確実にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して、個人の排泄パターンは職員が共有出来るようにしています。オシメで入所された利用者様もトイレでの排泄に変更出来た人もいます。	尿意を意識できない利用者に対しても、排泄の爽快感を感じて欲しいとの思いから、トイレでの排泄に努めている。立位が保てないとトイレでの排泄は難しい為、廊下の手摺を使った個別リハビリを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、レクリエーションでリズム体操を取り、又十分に水分・食事が摂れるように予防に取り組んでいます。 (運動・水分・食事)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今は週間予定表で入浴を提供しています。入浴回数は利用者様により違いますが、お風呂の好きな人には多く提供しています。	浴槽はこだわって設置した。少し小ぶりで、肩まで浸かることが可能な深さである。足が向こう側の壁に届かないと体が支えられず危険な為と、全身浴でリラックスしてもらいたいとの考えからである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を尊重しています。起床時間・朝食時間はさまざまです。昼食、夕食は出来る限り揃って頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、処方箋は職員がいつでも確認出来る事務所へ保管しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事は個人ファイルに記載し、職員が共有し、生きがいのある生活支援に努めています。(花・野菜作り、収穫、料理・洗濯物たたみ) 役割として個人的にテーブル拭き・消毒・配膳)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には近くを散歩し近所の人との交流があります。 家族様との外出有り。 季節行事(お花見・紅葉狩り・ドライブの支援あり)	花好きな利用者が多く、天気の良い日はテラスで季節の花を楽しむ。利用者手製の箸置きを植月文化祭に出品し、介護タクシーを利用して見学にも行った。紅葉狩りには、車椅子の利用者も一緒にドライブが出来る様を手配し、皆で楽しんだ。	開設後未だ間が無く、なかなか外出するゆとりが無かったが、今年は外出にも力を入れたいと考えている。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の個人持ちは、希望がなく、家族様が必要な物を購入して持って来られます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は支援します。 家族様の面会が多い。 手紙のやり取りが出来る利用者は支援しません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかな生活が出来るように天気の良い日は、南側ベランダ庭に自由に出られ、野菜、花、景色を楽しまれています。 ホール内に季節を感じられる展示物をしています。	居間は南向きに面し、勝央町の町並みが一望でき、季節になると満開のコスモス、蕎麦の花、打ち上げ花火を楽しむ事が出来る。花好きの利用者が多い為、室内には花を欠かさず置き、花を話題に会話を楽しんでいた。家族も事業所周りの花を、いつも季節の花に植え替えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今は、自由に我が家のように生活して頂いていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使い慣れたものを持ってきて頂くように入所時にお願いしますが、新しい物を持って来られる人が多いです。使い慣れたお茶碗・湯呑・衣類は今迄使われていた物を持って来られる方もいます。	家族が、朝日を浴びさせてあげたいとの思いから東向きの部屋を選んだ利用者もいる。毎朝カーテンを開け、朝日を浴びてもらう。各居室の表札は、管理者の妹が利用者の雰囲気に合わせてトールペインティングがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、動線に物を置かない、歩行器、車椅子の置き場所等危機感を持ち対応し、安心、安全で、出来るだけ自立した生活が出来るように努めています。		